

## 第5回 高齢者福祉医療戦略会議 議事要旨

日 時	平成 25 年 2 月 1 日 (金) 14 時～16 時
場 所	小牧市役所本庁舎 6 階 601 会議室
出席者	<p><b>【本部長】</b>            山下 史守朗 小牧市長</p> <p><b>【委員】(名簿順)</b>            松岡 和宏 市市長公室長            舟橋 武仁 市健康福祉部長            末永 裕之 小牧市民病院長            船橋 重喜 医療法人喜光会 北里クリニック院長            浅井 真嗣 医療法人胡蝶会 サンエイクリニック院長            大橋 弘育 (有)ウィルケア小牧代表取締役            大野 充敏 (有)エスエス・ヘルスケア・システムズ取締役            三嶋 直美 岩崎あいの郷(包括支援センター)管理者            田中 秀治 小牧市社会福祉協議会在宅福祉課長            江崎 みゆき 小牧市保健センター所長            松浦 詩子 小牧市ボランティア連絡会会長            松田 敏弘 特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワーク代表理事            穂積 聡 小牧市地区民生委員児童委員連絡協議会副会長</p> <p><b>【コーディネータ】</b>            東 史人 (株)富士通総研</p> <p><b>【事務局】</b>            大野 成尚 市長公室次長            小塚 智也 市長公室 市政戦略課長            舟橋 朋昭 市長公室 市政戦略課 市政戦略係長</p>
傍聴者	9名
配付資料	資料1 委員名簿・会場配置表 資料2 課題抽出・整理その4(移動・交通等及び生きがい・就労／ライフデザイン分野等)委員意見まとめ 資料3 「10年後の小牧市における高齢者の生活イメージ」委員意見まとめ

### 主な内容

<p><b>1 開会</b></p> <p>(1) あいさつ(本部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回のテーマである「移動・交通等及び生きがい・就労／ライフデザイン分野等」は、高齢社会の中でも重要なテーマである。これまでも、10年後の小牧市における高齢者の生活イメージに対し、様々なご意見を頂いた。今回が課題整理の議論の最終回となる。本日もそれぞれのご専門の立場・現場の状況から忌憚のない活発なご意見を頂きたい。</li> </ul> <p><b>2 議題</b></p> <p>(1) 第4回(医療・介護及び住まい・住環境分野等の議論)の整理の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コーディネータより、資料2を用いて第4回の議論を振り返り、整理結果を確認。</li> </ul> <p>(2) 課題抽出・整理その4(移動・交通等及び生きがい・就労／ライフデザイン分野等)</p>
---

- ・ コーディネーターより各委員から事前に提示された意見の集約状況を説明、各委員から意見の背景・実態等の補足説明や、新たな意見等を頂き、現状認識や課題等を共有。

### **【将来像】自分が行きたいところへ、好きなときに、安全に自分で行くことができる**

#### ◇「近くに公共交通機関が少ない」について

- ・ 一日数本しかバスが通らない地域もある。クリニックの患者は、自家用車や自転車を自分で運転するか、家族が運転する自家用車に乗って通院している。
- ・ 多気では、通るのは市内巡回バスくらいで、介護が必要な方にとっては利用できる公共交通機関が少ない。また、外出支援サービスは行き先が限定されている。

#### ◇「個別対応できるサービスが必要」について

- ・ 市の巡回バスは希望する目的地に直行しないため利用しづらい。デマンド交通、タクシーチケット等個別対応してくれる仕組みがあると良い。但し、費用が高額になるものは負担となる。
- ・ 高齢者はバス停まで移動するのも大変。また、行きたいと思った時に自由に移動できる訳ではない。十分なサポートが必要である。
- ・ 有償でも無償でもニーズに応じた個別対応のサービスがあるとよい。外出したくても身体状況により困難で、有償でも希望する人がいれば、有償の外出支援サービスを整備することも一つである。

#### ◇「レンタカーサービス等の充実」について

- ・ 試行が進んでいる 1 人乗りマイクロカーのように自分で移動できるものがあれば自由に外出でき、外出できる手段があれば外出への関心も湧いてくる。移動手段のメニューがあると良い。

#### ◇「高齢者が興味を持てる外出先が不足」について

- ・ 高齢者は、衣食住に直結する外出先へは出かける。中でも、病院へは何としてでも行きたいという人が多い。一方、まちのバリアフリーが進んでいないために、手押し車や車いすでの外出が困難となり、外出への関心が薄れていく。
- ・ 外出したくとも公共交通機関が少ない、外出サポートがない等から外出を諦め、外出する意欲がなくなってしまっている。

### **【将来像】自分で移動ができない場合には、自分以外の誰かが目的地へ連れて行ってくれる**

#### ◇「サービスの担い手・資源の不足」について

- ・ ボランティアは確かに不足している。緩和ケア病棟のボランティアの例で言うと、一般の人がボランティアの喜びを感じ、ボランティアに目覚めると、一生懸命になることから、そのような育成が大切である。
- ・ 高齢者を目的地へ連れて行くには、それが可能なボランティアが揃っていないといけないが、外出ボランティアの数はそんなに多い訳ではない。今後超高齢化が進むと更なるボランティアの不足が想定される。ボランティアはあくまでも気持ちで行っている。ボランティアもある程度は有償化することが必要である。

#### ◇「気軽に移動できる仕組みの整備」について

- ・ いつまでも無償ボランティアに頼る訳にはいかないが、有償化して金銭のやり取りが出てくると、管理が難しい。地域協議会で助け合いをし、その中でマッチングの仕組みを作っていく

たい。

- ・ 外出支援を頼みたいが、何かあった時の責任はとても大きい。病院への付添ボランティア等を有償化して、仕組みを作る等していきたい。

#### ◇「車の所有等責任問題がある」について

- ・ 地域には、何とかして支えたいという人もいるが、責任問題が出てくると躊躇してしまう。
- ・ 篠岡・味岡地区では8月より交通事業者によるデマンド交通の試行を予定。有償での運送ボランティアは白タクになってしまう等、運輸局の許可を取ることが難しい。できれば、行政のワゴン車を貸し出す等、地域協議会での仕組みを作りたい。

#### ◇「ボランティアへの保障も必要」について

- ・ ボランティアが車の運転時に車に何かあった場合、車にはボランティア保険が利かない（車への保険のみ）。制度面での対応を考えていかなければいけない。

#### ◇「人間関係の希薄化」について

- ・ ここ数年でどんどん近隣との関係が希薄化している。皆さん希薄化の実感はあり、何とかしなければという思いはある。助け合いは、関係の希薄化だけではなく、何かあった際の保護等の問題もある。いざというときの助け合いを考えなくてはならない。

### **【将来像】働きたい人が無理なく働いている**

- ・ コーディネータより、資料2を用いて各委員からの意見とりまとめ結果を確認。  
（統計資料から働く意欲のある高齢者は2割と少ない中、働く意欲があっても希望する時間・職種・場所で働くのは難しく、このような高齢者のニーズに対応した雇用先がないことに加え、そもそも高齢者を雇用する企業が少なく、高齢者の求人等の情報が不足している等、働きたい人が無理なく働ける環境にない。そのため、働く意欲がある人への就労支援（柔軟な働き方等）が必要という意見を頂いている。）

### **【将来像】自分の趣味の活動を楽しんでいる**

- ・ コーディネータより、資料2を用いて各委員からの意見とりまとめ結果を確認。  
（2種類のご意見に大別される。一つは、そもそも趣味がない・趣味への関心が低い人もおり、また趣味に取り組みたい人は既に自分で取り組んでいることから「十分に取り組んでいる」というご意見。もう一つは、趣味をしたいと思う人が、近くに活動の場所がない、情報がない等から趣味を楽しめる環境に巡り合っていないために「趣味の活動を行う機会がない」というご意見。）

### **【将来像】自分の知識や経験を活かして家庭や地域で役割を担い、誰かの役に立てる**

#### ◇「高齢期の生活イメージを描くための啓発が必要」について

- ・ 自分の経験や何ができるかということを踏まえて、高齢期のライフスタイルを描いておかないと、市民活動への参画意欲を持ってない。また、趣味のない人は外に出てこない。こうして家でテレビを見てばかり（テレビの番人）となる。
- ・ そもそも高齢期に入る前にリタイア後にやりたいことを持っていないと、生活イメージは描けないのではないか。
- ・ 刈谷市で市民活動センターが主催する「かたり場」というイベントでは、高齢者15人で1グループとなり自由に発言していく中で、自分が見たいことが見つかっていく非常に有

意義なイベントなので、小牧市でも類似の取組みを行えると良い。

◇「高齢者も担える役割が整理できていない」について

- ・ 団塊の世代において、地域で生きがいを持って生活したいと考えている人は多い。しかし、具体的にどのようなことができる人が必要とされているのかが分からない。また、自分に何ができるかが整理できていない。

◇「負担が大きい」について

- ・ 高齢者にとって、役割があることは生きがいにもなるが、地域の役員等を一人で担うことへの負担感もある。役割を細分化し、複数人で担うことができれば、よりやりやすいのではないか。地域の人との連帯を感じながら、何か役割を担うことが大切である。

◇「個人の得意分野や希望を把握できていない」について

- ・ 自分から積極的に手を挙げて何かをする人は少なく、多くの人は能力はあるが手を挙げない、言い出せない。他人から見て、役割に適した人もいるが、依頼しても応じてくれない人もいる。
- ・ 地域の誰が何をしているか、何ができるかを、日頃の付き合いの中で知っていくことが大切。小さな単位の集会も、人を知る絶好のタイミングである。また、助けてほしい人も、助けられる人も、「助けて」や「助けましょうか」と言いづらい。家の外へ出てもらうには、魅力ある場を作ることが大切である。例えば区民展では住民の意外な才能に気付くこともあり、そこからつながっていく。
- ・ 例えば市民にアンケートやチャートに記入してもらい、自分の得意分野を見つけたり、また、周囲がその才能に気付いたりしてマッチングしていくのも一つである。
- ・ 何かスキルを持っている人がいても、地域との関係が希薄であるために人材を発掘できず、知っている人に依頼が集中してしまい、嫌がられる。どこに誰が居るのか地域で把握しておくことが大切である。

◇「意欲はあるがどうしたら良いか分からない」について

- ・ サポートを必要としている人が、何を求めているかが分からない。また、サポートする側でも、得意分野を表に出さない人もいる。

◇「男性も家庭内で役割を果たす」について

- ・ 家の外では活躍しているのに、家族が不調でも家事をやらない人が多い。若い人は、比較的家庭内の役割を担っている。家庭の役割を担うことで、地域が見えてくることもある。

**【将来像】家族・近隣とのコミュニケーションが十分に取れている**

◇「コミュニケーションの必要性を感じていない」について

- ・ 子育て期等の若い世代には、敢えて近隣とのコミュニケーションを取らなくてもいいよう、一戸建てではなくわざわざマンションを選ぶ人がおり、このような人が増えていくと、ますます近隣との付き合いの希薄化が進む。
- ・ 今は近くに居てもメールでコミュニケーションを取ろうとする等、世代によってコミュニケーション方法が変化してきている。コミュニケーションの必要性を感じない人には、どのように働きかけても難しい。

◇「地域住民の意識に影響される」について

- 元から地域に住んでいる人と、新たに越してきた人との間では、意識の差もある。新たに越してきた人は、何年経過したら「地元の人」になれるのか。  
⇒何年経っても変わらないところもある。地域によっては、古くから住んでいる人の輪の中に入るのが難しいところ、新しい人が地域の中で力を尽くしているところもあり、様々である。
- 昔の「〇〇村」という意識のある所もあるが、若い人が積極的にまちづくりを行っている所もある。桃花台は同じ時期に入居し、自分たちでまちを作ってきたという意識がある。古いところと新しいところが融合するのは難しい。向こう三軒両隣が互いに話せる体制をとっておけば、個人情報まで立ち入らなくても、関係性が希薄化することはない。

#### ◇「コミュニケーションの機会がない」について

- 本当に大切なのは、本当はコミュニケーションを取りたいが、思うように取れないという孤独な人を発掘し、ボランティア等が手を差し伸べることである。

### 【将来像】地域にいる身近な人に、買い物やごみ出し等の日常の作業をサポートして貰える

#### ◇「本人や家族がサポートを遠慮する」について

- 遠慮があるために（特に繰り返しは）地域の人に頼みづらい。また、家庭や家族の立ち入ったことは近所には知られたくないという思いがある。そのため、民間事業者に依頼する方が心理的負担が少ない。民間事業者がサービスを充実させてきているが、十分に知られていない。地域包括支援センターでも情報収集・提供していきたい。

#### ◇「継続して遠慮なく依頼できる仕組みづくりが必要」について

- サポートの仕組みを継続していくためには、サポートされる側の心理的負担を軽減させなければいけない。近隣の支え合いがないため、準公共的な仕組みづくりが必要となる。

### 【将来像】自分が誰かを支えられる時は、見守りや食事・移動等のサポートをすることができる

- コーディネータより、資料2を用いて各委員からの意見とりまとめ結果を確認。  
(サポートをする人の不足、サポートを必要とする人の所在が不明のために、サポート体制がないというご意見が多い。その背景として、まずサポートする人の不足という点では、個人情報の問題や、責任問題、近隣関係の希薄化、遠慮の話が、サポートを必要とする人の所在が不明の背景としては、情報がなくことや、遠慮の問題が、それぞれ指摘されており、サポートしたい人・されたい人を把握してつなぐ仕組みが必要という意見に集約される。)

### 【将来像】生活を維持することのできる蓄え・収入がある

#### ◇「行政によるリバースモーゲージがない」について

- リバースモーゲージは小牧市単独では行っていない。愛知県社会福祉協議会が県民を対象に行っているが、担保の問題や相続人の同意の問題がある。
- 貯蓄がなくとも、持ち家という資産がある人もいる。そういう人が、リバースモーゲージ等、資産を現金化できる仕組みがあると良い。

#### ◇「金銭管理できない人がいる」について

- 本人の体調や家族関係を理由に、自分で金銭管理をすることが困難になり、成年後見制度を利用する人がいる。正しく運用していない者も見られることから、第三者も関与した、本人

の意向をしっかりと汲み取る仕組みが大切である。

### 3 閉会

#### (1) 次年度の開催予定

- ・ 次年度の開催日は決定次第連絡する。